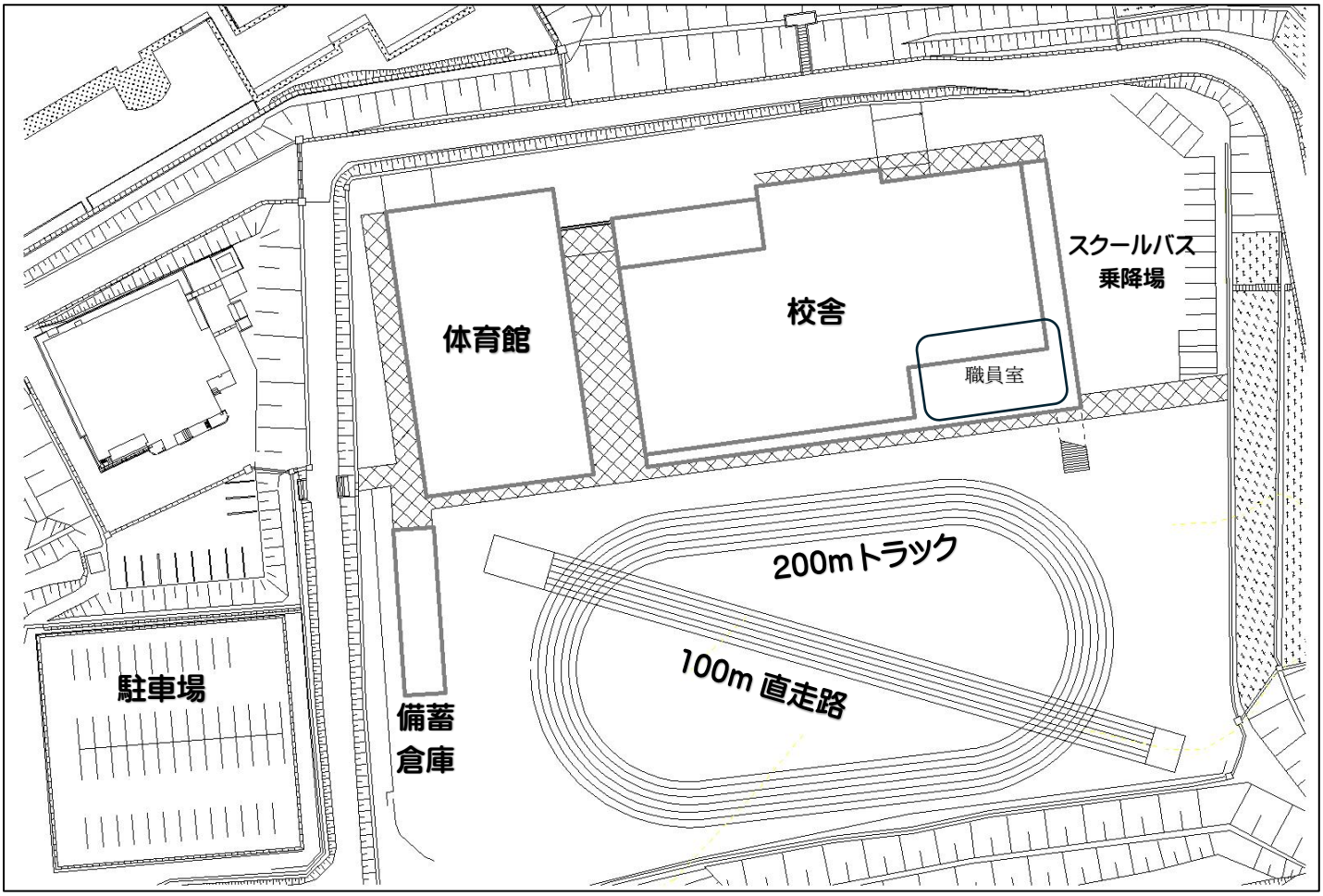
義務教育学校通信

第５号
令和８年10月30日(金)
【編集】役場プロジェクトチーム
【発行】鮫川村教育委員会
【電話】0247-49-3151

鮫川村義務教育学校の配置が決定！



【校舎】
校舎の延べ床面積は約４０００平方メートルでコンパクトながら機能的な造りを目指します。材質は現在進行中の地質調査の結果によって変わりますが、木材を使用する場合は村産材の使用を検討しています。２階建てにして高学年と低学年を分け昇降口の近くに職員室を配置するなど、安全面に十分に配慮した構成にします。

【体育館】
体育館は約１０００平方メートルで、運動スペースは今の中学校と同じくらいですが、室内トイレ、更衣室、さらにはエアコンを完備し、機能的で子どもたちが運動しやすい施設にします。

【校庭】
校庭は今の中学校と同様に２００メートルトラック、１００メートル直走路を整備し、体育の授業はもちろん、部活動やイベント、式典なども開催できる広さを確保します。

【その他】
施設全体として避難所機能を整備するため、屋外倉庫に備蓄倉庫を併設し、いざという時に頼れる施設になります。

また、学校の先生や来校者の利便性向上のため、現在のテニスコートを駐車場として活用します。約６０台の車を駐車できます。

スクールバスの乗降場は校舎及び職員室の近くに設け、登下校時も安全・安心な造りになっています。

裏面へ

配置計画はどんな流れで決まったのかな？

配置計画は全ての施設の基礎となるものなので、肝心かなめ、とても重要な計画です。
その作成工程は慎重に進められました。

作成のおおまかな流れ

田畑建築で原案作成
↓
役場プロジェクトチームで財政面・防災関連を検討
↓
幼保小中教育連携協議会で安全面や機能性を検討
↓
最終的に村長が決定

役場義務教育学校等施設建設プロジェクトチームや幼保小中教育連携協議会から田畑建築士へはかなり多くの要望を伝えました。時には田畑建築士を困らせるくらいの要望をしたこともあります。

田畑建築士からは「村の熱意がすごい」「最終的にはほとんどの要望を受け入れて完成させることができた」とのコメントが寄せられました。

幼保小中教育連携協議会の様子

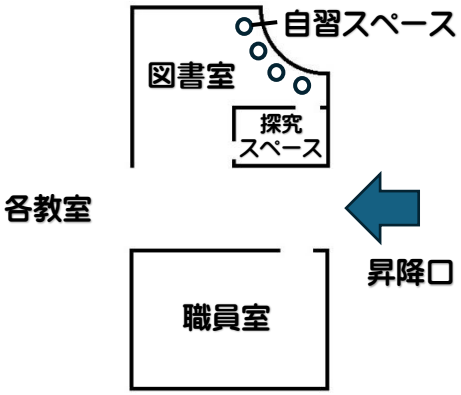
義務教育学校の特色は？

義務教育学校には、子どもたちの学力や情緒豊かな感性を育てるため、２つの核となる場所を作ります。

特色その１：毎日通いたくなる図書室

図書室は昇降口横の立ち寄りやすい位置にあり、十分な広さが確保された開放的な空間です。

室内には読書や学習に集中できる自習スペースや、図書室の本を手に取りながら仲間たちとグループ学習ができる探究スペースを設け、誰もが毎日通いたくなる魅力的な場所を目指しています。



図書室の配置イメージ

特色その２：多世代交流ホール

子どもの数が減っている現状から、学年の垣根を越えて給食を食べられるランチルームとしても活用できる、多世代交流ホールを計画しています。この場所は、村が推進するオーガニックビレッジ構想と結びつけ、地産地消の促進や、子どもたちと農家さんやお年寄りとの交流の場としても活用し、学力だけでなく情操教育も充実させる計画です。

多世代交流ホールイメージ

最後に

施設の配置が決定し、現在、教室などの中身の配置を最終調整しています。また、教育内容作成も進めていきます。

皆さんのアイディアやご意見をお待ちしております。

ご意見などはこちらへ

編集後記

物事を進めるには、いまを見る目と先を見る目の両方が必要です。どんな課題に直面してもこの両面を考え、子どもたち、そして村のためには何が最善かという思いで取り組んでいます。